

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

| 視点                      | 4年間の目標<br>(平成28年度策定)  | 1年間の目標  | 取組の内容  |  | 校内評価  |   | 学校関係者評価<br>(3月1日実施)   | 総合評価 (3月22日実施)  |   |
|-------------------------|---|---|--|--|---|---|---|---|---|
|                         |   |   | 具体的な方策   | 評価の観点  | 達成状況  | 課題・改善方策等  |   | 成果と課題   | 改善方策等   |
| 1<br>教育課程<br>学習指導       | <p>①生徒一人ひとりの自主的・意欲的な学習を支援するために、基礎学力の定着と生きる力を育む教育課程を編成する。</p> <p>②授業内容の精選、教授法の研究に組織的に取り組み、授業力向上を推進する。</p>    | <p>①基礎科目と発展科目を体系化し、一人ひとりの進路希望の実現につながる教育課程を編成する。</p> <p>②基本的な学習習慣を身につけさせ、進路実現に結びつく学びのために組織的な授業改善を推進する。</p>                             | <p>①基礎から発展科目へのつながりを体系化し、系列については四系列に整理した教育課程を編成し、多様な進路の実現を支援する履修科目を設定する。</p> <p>②授業研究、研修会等を計画的に実践・研究し、体験的でわかりやすい授業のあり方を職員間で共有する。同一科目における共通テストを進める。</p>        | <p>①多様な進路を実現する履修科目と選択科目を編成できたか。</p> <p>②80%以上の生徒がわかりやすい授業であり、主体的に学習活動に取り組むことができたか。</p> <p>③各教科において教育内容及び教育法を共有できたか。</p> <p>④同一科目における共通テストを100%実施できたか。</p>    | <p>①総合学科改善計画に基づき、四系列に整理した教育課程を編成した。新たに設置した基礎学力の伸長を図る教養系列を充実させる学校設定科目を新設した。</p> <p>②73.8%の生徒がわかりやすい授業と評価した。</p> <p>③教科研修会を4回実施し、各教科の共通教材の蓄積が進んだ。</p> <p>④同一科目における共通テスト達成率は74.5%にとどまった。</p>             | <p>①平成29年度入学生とそれ以前の入学生の進級に係る指導の整合、単位制における学年制的年次進行の弾力的運用を整理する必要がある。</p> <p>②教科による研修会・協議会の開催を年間計画として複数回位置づける。各回における内容や共通教材、共通テスト化の状況を全体で把握し、共通教材・共通テスト化をさらに進める必要がある。</p>  | <p>① 補習等学習支援の充実を図り、卒業に向けた指導をこれまで以上に丁寧に行うこととした方向性に賛成である。</p> <p>② わかりやすさを測る指標をさらに工夫するとよい。</p>  | <p>① 総合学科改善計画に基づき、県立高校総合学科7校の共通化を進め平成29年度入学生からの教育課程を編成した。総合学科単位制の仕組みの中で、学年進行型を取り入れた教育課程と平成28年度までの入学生の教育課程とが混在する2年間の運用について、さらに整理する必要がある。</p> <p>② 多様な科目の設置を保障する上で20名を超える講師を抱える中、教育の質や継続性の担保のため、さらに共通テスト化を進める必要がある。</p>   | <p>① 教務内規の改定と弾力的な運用の実施。</p> <p>② 教科研修会実施時期の検討と定例化。</p>  |
| 2<br>(幼児・児童)<br>生徒指導・支援 | <p>①生徒一人ひとりの自己肯定感を育み、安全かつ安心して生活が送れる学校づくりを進める。</p> <p>②心と体の健康と「いのちの尊重に関する教育」の組織的な研究・実践を推進し、社会性と主体性を伸長する。</p> | <p>①基本的生活習慣を身につけさせ、規範意識を育てる。</p> <p>①部活動を活性化し、加入率の上昇に努める。</p> <p>②生徒相談の充実により、支援に努める。</p> <p>③「いのちの尊重に関する教育」の取組を継続し、校内外の相談体制を構築する。</p> | <p>①朝の立ち番指導、遅刻指導を継続する。</p> <p>①年2回いじめアンケートを実施し、生徒の実態を把握する。</p> <p>①中学生向けの部活動体験や在校生の仮入部を、入部率を上げる効果的なものとするよう検討する。</p> <p>②職員が生徒を支援する知識や能力を獲得するための研修を充実させる。</p> | <p>①遅刻者や苦情件数、特別指導件数が減少したか。</p> <p>①いじめの把握と解決につながったか。</p> <p>①部活動の入部率が50%を超えたか。</p> <p>②生徒相談対応により、課題解決につながったか。</p> <p>③「いのちの尊重に関する教育」に係る教職員研修を1回以上実施できたか。</p> | <p>①遅刻者や苦情件数は減少したが特別指導件数は増加した。日常の丁寧な生徒対応やいじめアンケートの回答から2例の人間関係の悩みの把握と解決につながった。部活動の入部率は38%。</p> <p>②6回のケース会議の他、SC、SSW、支援学校の担当を交えての拡大支援会議を1回実施し支援につながった。ネットいじめや自殺予防について、外部講師を招聘した研修会を含む計2回の研修会を実施した。</p> | <p>①指導上必要な保護者の理解と協力を得られないケースが多く、指導が進捗しないケースが多かった。保護者の理解を深め、協力いただくことが課題である。部活動支援として食育講座の導入等新規事業を実施したが加入率増加につながらない。1年次春の取組強化の必要がある。</p> <p>②年間13回のSC来校数ではSCにつなげたい生徒や保護者に対応しきれない。回数増加を要望するとともに、SSWや支援学校の活用を進める必要がある。</p> | <p>① 職員の生徒指導の結果、数年は指導件数が減少傾向であったが、今年度は喫煙(同席)、車両登下校が例年の倍近く増えたことは残念である。</p> <p>① 高校選択において部活動の魅力が占める割合は高い。活性化を図ることは重要である。学校の情報を伝える媒体としてHPの存在は大きい。HPを見やすく魅力的なものにすることも重要である。</p> <p>② 心の問題はすべての生徒の問題である。引き続きいのちの尊重に関する教育を進めて欲しい。</p> | <p>① 部活動入部率を上げる新規取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育プログラム全3回の実施</li> <li>・合格者説明会時の部活動紹介</li> </ul> <p>しかし、加入率の上昇にはつながらなかった。</p> <p>① 特色ある授業の様子や部活動の実績等の報告をHPに適宜アップしているが、入学志願者数の増加につながらなかった。</p> <p>② SCの他、SSWなども活用し生徒の他、保護者の相談の機会を拡大することができたが、必要とするSC配置日数に対し実際の配置日数が不足している。</p> | <p>① 部活動入部率向上プログラムの継続と検証。文化部合同発表会の合格者への案内等、新入生向けの広報活動も新たに展開する。</p> <p>① 中学生やその保護者が必要とする情報を検証し、HP作成に反映させる。また、HP作成においては即時性と見易さを工夫する。</p> <p>② SCの配置日の運用を更に工夫し、最大限の活用を目指す。</p> |

|   |              |   |  |  |  |   |  |   |  |  |
|---|--------------|---|--|--|--|---|--|---|--|--|
| 3 | 進路指導・支援      | <p>①生徒一人ひとりに応じた進学・就職に向けた指導を充実させる。</p> <p>②ガイダンス科目を通して社会的・職業的に自立することを旨とする人間を育成する。</p>  | <p>①生徒一人ひとりに応じた進路指導を行い、希望の進路実現率100%を目指す。</p> <p>②各年次のガイダンス科目の内容を充実させ、意見発表・問題解決の能力を身につけさせる。</p>         | <p>①組織的に進路説明会を行う。<br/>三者面談を効果的に実施できるよう内容や資料作成の年次進行による系統化を行う。</p> <p>②計画的に生徒が発表する機会を設け、生徒がその発表を目標に学習できる教材を作成し、指導する。</p> | <p>①希望の進路実現率が80%を超えたか。</p> <p>②70%以上の生徒が自己達成感を得、また他者を尊重する態度を獲得できたか。</p>  | <p>①希望進路の実現率は82%、特に就職希望者内定率100%を達成。三者面談資料を精査し進路の手引きに反映した。</p> <p>②81%以上の生徒が自己達成感を得、また他者を尊重する態度を獲得できたか。</p>  | <p>①1年次保護者への進路指導を充実させるとともに各年次の保護者説明会を年間2回実施し、進路ガイダンスを強化する。</p> <p>②ガイダンス科目の内容の充実及び組織的な取組の強化のために学習内容のテキスト化を進める必要がある。</p>  | <p>①職員の3年間の指導の成果が進路希望の実現率の高さに現れたと考える。評価できることである。</p> <p>②課題研究発表会を参観した。言語活動・課題解決・表現活動等を重視した総合学科の教育の成果が現れていた。</p>                 | <p>①全年次における三者面談の実施率が向上した他、就職内定率100%をはじめ希望進路実現率82%を実現した。今後は面談時に使用する資料の共通化をすすめ面談による効果を高める必要がある。</p> <p>②学校全体のガイダンス科目のつながりを深め、効果を高めるためにグループ業務の再編を行った。</p>                               | <p>①面談時の配付資料計画を進路指導グループを中心として行い、3カ年の保護者向けの進路説明計画を作成する。</p> <p>②ガイダンス科目の学びを可視化し成果を蓄積する冊子を作成する。</p>                                      |
| 4 | 地域等との協働      | <p>①地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。</p> <p>②社会に貢献し、開かれた学校づくりを目指す。</p>   | <p>①地域の行事に協力し、生徒やPTAが積極的に参加できる環境を整備する。</p> <p>②公開授業等、学校の持つ教育機能や施設を積極的に地域に提供する。</p>                     | <p>①地域の行事やボランティアへの積極的な参加を呼びかけ、社会貢献が重要であるという意識を育む。</p> <p>②地域の方々との交流や地域事業所等と連携し、生徒が積極的に交流・参加できる環境を整備する。</p>             | <p>①地域連携をする機会や生徒やPTAの参加が増えたか。</p> <p>②地域や事業所等との連携先が増えたか。</p>   | <p>①地域連携の機会を新規に5回開拓し参加が延べ約140人増加した。社会貢献への意欲が高まった。</p> <p>①新たに3箇所の地域や事業所等との連携先を開拓し、生徒が参加した。</p>  | <p>①現在地域貢献に参加する生徒はボランティア委員や生徒会役員等を中心とする。地域貢献に参加する層をもっと拡大する必要がある。</p> <p>②本校から連携先に出向く連携の他に本校に出向いていただく連携先の開拓も検討する必要がある。(本校の教育内容の宣伝につなげる)</p>   | <p>①職員・生徒の活動が実り地域からの理解・協力が高まっていることを評価したい。これまで中・幼保小の連携はあるが、小高の連携は進んでこなかった。高校生による防災教育や地域清掃で連携が深まり、小学生もよい影響を受けた。ボランティアも受け入れたい。</p> | <p>①地域連携が進み、連携先からは高い評価を受けている。しかし、この取組が本校の知名度やPRにつながっていないことが課題である。</p> <p>②大学(横浜桐蔭大学・玉川大学)との教育連携も新たに進めた。</p>  | <p>①本校の地域連携の実績をHPで効果的に発信するためにHPのリニューアルを行う。</p> <p>②大学生の適正な受入数などを検証する。</p>  |
| 5 | 学校管理<br>学校運営 | <p>①すべての職員が不祥事防止の意識を持ち、保護者・地域・県民から信頼される学校運営を行う。</p> <p>②生徒の安全・安心の確保のため、環境教育や防災教育を充実させる。</p> <p>③ 織的な学校運営のため、OJTによる人材育成を進める。</p> | <p>①不祥事防止の職員意識を高め、不祥事ゼロを目指す。</p> <p>②地域と協働する等、実践的な防災教育を実施する。</p> <p>③組織的な業務遂行をととして職員の資質・能力を高め、活かす。</p> | <p>①事故防止会議の職員による発表の実施。</p> <p>②生徒による防災教室の実施。月例清掃の実施。DIGの研修会の実施。</p> <p>③複数担当制によるチェック機能の充実と引継ぎ体制を確立する。</p>              | <p>①職員による事故防止の発表を年間10回以上できたか。</p> <p>②生徒による防災教育を実施できたか。月例清掃やDIGに参加した生徒の意識が高まったか。</p> <p>③業務の引継ぎが組織的に行われたか。</p> | <p>①職員による事故防止の発表を12回実施。外部講師による協議・演習形式の研修を1回実施。</p> <p>②生徒によるDIG研修を1回実施し自宅までの避難経路を確認させた。</p> <p>③業務の引継ぎは電子データとして併せてファイル保存場所の整理を実施した。グループ間の業務を調整した。</p> | <p>①職員が事故防止にかかわる資料を整理保管し、事故防止の意識を更に高めるようにする。</p> <p>②生徒によるDIG研修の継続とともに詳細地図や研修資料の充実を図る。</p> <p>③グループ業務については総括教諭の他に設置しているサブリーダー、各業務の主任、年次運営については年次リーダーと年次代表の役割と分担をさらに明確にし、機能を高める必要がある。</p> | <p>①適切に管理・運営がなされている。</p> <p>② 今後も地域の防災会議に参加し、連携を深めて欲しい。</p> <p>③ 電子データ量が多過ぎて、却って業務が円滑に進まないこともある。データ量の整理、見易さなどを見直すことよい。</p>      | <p>① 職員による事故防止の発表を継続して実施できた。また、協議・演習形式により研修効果を高めることができた。時宜を得た内容の研修計画を立てることが重要である。</p> <p>② 地域防災会議の参加をグループ業務としたことで業務の継続につながった。</p> <p>③ サーバーの切替、PC交換、システム変更等があったが、事故なく導入することができた。</p> | <p>① 年間の事故防止の発表を次年度当初に前年度まとめとして発表し、振り返る機会を作る。</p> <p>② DIG研修や地域防災会議参加時の情報を更新し、最新のデータで防災関連業務を行う。</p> <p>③ グループ業務のPC上のフォルダ管理法を共通化する。</p> |